

# 1. 平成30年1月～3月期の景気動向

今期のDI平均値は△50.6ポイントで、全ての業種においてマイナスとなり、前期10～12月期の△28.4ポイントから22.2ポイントマイナスとなった。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		△44 (△27) 	△38 (△25) 	△23 (△20) 	△28 (△34) 	△56 (△33) 	△44 (△11) 	△68 (△42) 	△33 (△34) 	△61 (△33) 	△22 (△22) 
採算		△44 (△31) 	△44 (△38) 	△35 (△34) 	△21 (△32) 	△63 (△33) 	△56 (△22) 	△52 (△38) 	△44 (△40) 	△50 (△27) 	△28 (△22) 
資金繰り		△44 (△19) 	△38 (△25) 	△31 (△15) 	△21 (△22) 	△22 (△11) 	△22 (0) 	△34 (△28) 	△42 (△24) 	△44 (△22) 	△33 (△22) 
業況		△46 (△25) 	△46 (△43) 	△33 (△22) 	△43 (△36) 	△56 (△22) 	△56 (△22) 	△65 (△46) 	△50 (△46) 	△53 (△27) 	△28 (△25) 
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		従業員の確保難		販売単価の低下		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇	
	3位	従業員の確保難		製品(加工)単価の低下		人件費以外の経費の増加		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
業種別 コメント		大雪の除雪作業による売上増加が期待されたが、思ったほどの効果はなく、加えて官公需要の年度末工事が停滞したことから、今期状況は全項目でマイナスとなった。来期見通しについても全体を通して、未だ景気感は薄く、全ての項目でマイナスの結果となった。 材料価格は上昇傾向にある反面、請負単価は減少しており、経常利益確保が困難な状況である。		今期は円安の影響からか原材料仕入単価の上昇を挙げる事業所が多かった。そのため、採算、資金繰りを含め、業況はマイナスとなっている。来期の見通しは、売上高、採算について回復の見込みであり、従業員確保が困難な状況が続くなかで、生産性の向上が課題とされる。		前期(平成29年10～12月)と比べ、今期業況、来期見通しも全ての項目でマイナスの結果となった。 車両運搬具やOA機器の購入等、人件費以外の経費が増加しており、販売単価の低下に加え、価格に経費を転嫁できず苦しい状況が続いている。		今期状況は大雪等の影響で客足が伸びず、売上高は△26ポイント、業況△19ポイント等、全項目とも大幅なマイナスとなった。 来期見通しは前年同期(平成29年1～3月)と比べ、特に不変な回答が多く、春からは利用客増加に向けた仕掛けが必要である。		今期状況は売上高△28ポイント、業況△26ポイントと小売業同様、サービス業全業種とも大幅なマイナスとなった。 今期は大雪の影響で客足が伸びず、利用客数が減少したとの回答が多く、春からは利用客増加に向けた仕掛けが必要である。	



※当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

※( )は前回調査時のD・I値